



徳之島虹の会では、島の子どもたちと、自然や文化に関する体験学習を積極的にを行っています。先日、伊仙中学校の生徒たちと一緒に世界自然遺産について学び、ゴミ拾いのボランティア活動を森と海でそれぞれ行いました。活動を通して中学生たちが考えたことを、一部ご紹介いたします。

徳之島ボランティア

中学生ボランティア



林道散策や自然保護活動を通して、徳之島の自然について知ることができ、自然とはとても尊いものだと感じました。今、徳之島はこうして自然遺産に選ばれていますが、人々は次々と森林を破壊していて、最近では自然が減っていきつつあります。これからは、

私たちが自然を守っていかなければならないと実感しました。



世界遺産にも登録されたとてもきれいな島に住んでいるのに、自分たちにとって身近な存在である自然について、今まで考えてこなかったということが改めて分かりました。そして、道端にたくさんタバコの吸い殻やビール缶が捨てられているのを見て、将来ポイ捨てをするような大人には絶対ならない進んでボランティア活動を行える大人になりたいなと思いました。

ゴミを1つ捨てることで、その1つを捨てる人、食べてしまう生き物、悪化する環境が生まれてしまいます。「世界自然遺産」という肩書がついているこの島は、どこを見てもゴミが目立ちます。私たち子どもは、大人からいろんな注意をされます。でも、大人は、タバコの吸い殻や空き缶を捨てても怒られません。そして、捨てるのは私たちです。子どもは、大人の背中を見て育ちます。「責任」ある行動をとってほしいです。ポイ捨てをしない、という簡単なことからでも、一緒に協力して取り組んでいきましょう。

伊仙中学校 二年生一同

この校外学習を通して、この島でもう14年生活しているのに何も知らなかったということがわかりました。自分たちがゴミ拾いをするまで知りませんでした。が、すごい量のゴミがそこら中に捨てられています。この島に住んでいる私たちが捨てているゴミなので、ゴミ拾いをしていいる時は残念な気持ちでいっぱいでした。私もポイ捨てを何度もしたことがあります。

人がポイ捨てしたゴミは、川から海へと流れ、砂浜に流れ着いたり海を漂ったりします。以前、ニュースでビニール袋をクラゲと勘違いして食べてしまったウミガメが亡くなったと報じられていました。このウミガメも、人がゴミを捨てなければ死んだりしませんでした。私は、もうポイ捨てをしないと決めました。自然を守りつつ、動物たちと一緒に暮らしていきたいです。



鳥の宝を守り伝えるために



#11
NPO法人 徳之島虹の会